

平成 27 年度 第 4 回 倫理審査委員会審議

申請者	主任理学療法士	小田 洋子
受付番号	15-30	
課題名	移動方法・自立度・認知面の評価（嬉野式 ADL 評価表）の疾患別経過予測	
研究の概要	移動方法・自立度・認知面の簡易的評価にて、入院前 ADL と、中間評価として入院または術後 2 週間後と退院時に評価を実施する。この 3 項目評価により、入院から退院までの経過を疾患別に点数評価し、移動に着目して自宅退院または転院への評価指標となり得るか検討したい。	
判定	迅速審査承認	計画どおり承認とする。

申請者	消化器内科医長	森崎 智仁
受付番号	15-32	
課題名	特別な背景を有する症例におけるアダカラムの市販後安全性調査	
研究の概要	<p>血球細胞除去用浄化器「アダカラム®」は、IBD 研究班の治療指針や、ガイドラインにも当該療法が記載され、潰瘍性大腸炎およびクローン病治療における選択肢として治療上の位置付けが明確化されている。</p> <p>アダカラムの使用成績調査における有害事象（副作用）の発現率は潰瘍性大腸炎で 7.7%（54/697）、クローン病では 6.6%（47/707）と安全性の高い治療法として認知されている。</p> <p>しかしながら、承認取得のために実施した治験では、高齢者、小児、妊婦、腎機能障害、肝機能障害を有するなどの特別な背景の症例は対象から除外されており、このような患者群におけるアダカラムの安全性を確認できていない。そこで、治験では評価できなかった特別な背景を有する症例におけるアダカラムの安全性を調査することを目的とする。</p>	
判定	承認	計画どおり承認とする。

申請者	看護師長	岩崎 藤子
受付番号	15-33	
課題名	WLB の取り組み「定時退庁に関する看護師の意識調査」	
研究の概要	<p>A 病院では平成 25 年に看護職のワークライフバランス（以下 WLB と略す）インデックス調査を実施し、労働時間・時間外勤務が問題として抽出された。平成 26 年度にかえるバッヂを作成し、ポスターによる啓もう活動を行い、定時退庁を推進する取り組みを開始した。しかし、実際には定時に帰れない状況も発生している現状がある。そこで、定時退庁しやすい雰囲気づくりのためにスタッフが何を重要と考えているか明確にすることと、かえるバッヂの活用状況について現状把握を行うために看護スタッフへのアンケート調査を実施する。</p>	
判定	迅速審査承認	計画どおり承認とする。

申請者	外来看護師	二木 美紅
受付番号	15-34	
課題名	外来常勤看護師のワークライフバランスを考え、ニーズに合わせた夜勤・交替制勤務についてのアンケート調査	
研究の概要	<p>現在、外来では常勤看護師 3 交替制勤務（一部放射線科を除く）を行っているが、深夜勤務は1人となるため繁忙時には病棟から応援を呼べる体制となっている。しかし勤務に対する不安の声や、日勤業務を終え深夜入りをするという勤務の疲労感や、夜間の出勤・帰宅時の不安など改善を求める意見があがってきている。そこで、今回アンケート調査を行い現在の夜勤・交替制勤務について全外来常勤看護師の思いを知り、改善を求める声があれば勤務体制の見直しを考える機会にしたい。</p>	
判定	迅速審査承認	計画どおり承認とする。

申請者	臨床研究部長	佐々木 英祐
受付番号	14-17	
課題名	医療・介護関連肺炎に関する共同調査研究 ～医療・介護関連肺炎診療の実態調査～	
研究の概要	<p>医療・介護関連肺炎（以下 NHCAP）に対する実地医療下の診療実態を調査研究し、死亡率、治癒率を把握する。NHCAP 診療ガイドライン（日本呼吸器学会 2011 年）と関連付けて検討しガイドラインの妥当性を評価する。なお、NHCAP 診療ガイドラインを評価するうえで、後ろ向き研究では欠落が多い PS（Performance Status）や呼吸数などの情報を確実に入手するため、本調査研究は前向き観察研究と位置付けることとした。また、成人市中肺炎診療ガイドライン、成人院内肺炎診療ガイドラインとも関連付けて、抗菌薬選択の妥当性を検討する。</p>	
判定	迅速審査承認	H26.9.25 付承認課題。研究計画書の記載事項変更のため、再審議の結果承認となった。